

平成 22 年度
第 4 回 朝日地域審議会
会議録（概要）

期日：平成 22 年 11 月 11 日（木）

場所：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

平成 22 年度 第 4 回 朝日地域審議会 会議録

○日時：平成 22 年 11 月 11 日（木） 13 時 30 分から 17 時 15 分まで

○会場：鶴岡市朝日庁舎 大会議室

○出席者：敬称略

（委員）佐藤正、齋藤健一、松本壽太、伊藤文一、佐藤照子、宮崎康史、齋藤亮一、佐藤芳彌、清野義次、佐藤清、帯刀春男、井上時夫、菅原孫一、佐藤世津子、難波庄一、菅原和則
（20 名中 16 名出席）

（市側【本所】）企画部長、企画調整課長、地域活性化推進室長、市民部次長、市民生活課コミュニティ主幹、総務部調整課長、企画調整課・地域活性化推進室・市民生活課職員

（市側【庁舎】）朝日庁舎支所長、各課課長・主幹、総務課・商工観光課・農林課職員

1. 開 会

2. あいさつ 会長、支所長

3. 協 議

（1）鶴岡市総合計画実施計画について

企画部企画調整課より説明

（2）鶴岡市過疎地域自立促進計画について

企画部地域活性化推進室より説明

【質疑応答】

質問（佐藤正）

立派な計画が示されているが、施策として実施されている内容との矛盾を感じている。例えば合併後 5 年間で調整された事務事業、行財政改革の検討課題など、中山間地域の実情も充分分かっているはずなのに、大綱づくりが優先されているように感じる。朝日地域にはもう自治会として機能しなくなる恐れのある限界集落もあり、もう少しきめ細かい対策をすぐにとって頂かないと、立派な計画も計画倒れになってしまう。

回答（地域活性化推進室長）

過疎計画については、既に今年度から実施されている取り組みもあれば、12 月議会で承認されれば実行に移れる取り組みもある。来年からすぐに取り組める事業はすぐに取り組みたいと考えている。

質問（帯刀春男）

朝日地域も含め市内全域が高齢化する、いわゆる高齢社会になりつつある現状があるが、総合計画の中でこの実情をどの位意識して計画を作っているのか。

回答（企画調整課長）

総合計画については 10 年間の計画で平成 21 年度の段階で将来の人口予測も行いながら、高齢化等の状況も見込んだものとなっている。65 歳以上の人口を具体的な数字であげると、平成 30 年には 45,292 人と、全市で 34% の高齢化率の推計を見込んでいる。中山間地域だけでなく市街地の高齢化も進んでいる状況もあるが、市街地は生活インフラが整備されているため市街地が有している機能として補える部分もあるが、中山間地域ではそれを支えることが集落だけでは難しいと考えられる。そのため、過疎計画などで基盤を整えられるように検討を進めている状況である。

意見（帯刀春男）

小さい集落であればあるほど地域の中でどのように支えていくかという事になるが、既に出来ることは全てやっているという状況である。今後、高齢化により一層厳しい状況が想定される中、行政の支援策を見ると集落や自治会の自立の為の自主活動を支援する取り組みが多く見られるが、それだけではもう維持が困難という実態があることを報告しておきたい。

意見（佐藤清）

計画に対して、実施を早くすべき。いかにスピーディに実施するかが重要である。

回答（企画部長）

まだ過疎計画は策定途中で具体的な事業の説明ができないが、現状として朝日、温海の中山間地域は各集落ごとに状況がそれぞれ異なっているという認識をしている。世帯数が減って高齢化が非常に進んでいる集落もあれば、そうでもないというように色々と特徴があり、今後どのように進んでいくか、それぞれの集落の事情によって違ってくると思う。行政で一方的に方向性を定めることも当然いかなないので、集落の方といろいろな話し合いをしながら進めたいと考えている。現時点で高齢化が進んでいる小規模な集落には、外部より人材を入れて支援することも検討しているし、将来的に展開が可能だという集落については集落ビジョンを作ってもらい、市でも基金を作り財政的にも支援し、集落が主体的に行う取り組みを推進していきたい。いろいろな計画を検討しているが、この課題は中心的に進めていきたい。

（3）地域コミュニティの実態調査の実施状況と課題について

市民部市民生活課より説明

【質疑応答】

質問（佐藤正）

自治組織実態調査について、2年間で全体の2割しか調査できなかったとの説明があったが、どんな理由でできなかったのか。

回答（コミュニティ主幹）

それぞれの地域に直接伺って聞き取りを行う方法をとったため、地域によって差があるが、20年、21年のうち鶴岡地域が250のうち20、藤島が61のうち30、羽黒が71のうち10、櫛引が21のうち13、朝日は1箇所以外全ての38、温海は27全部という状況でやっている。マンパワーの問題もあって進まなかった。このままでは今年度中に完了できないということで、アンケート調査に切り替えて行うことにした。

質問（佐藤正）

実態は分かったが、何故、朝日や温海と他の地域がこんなに違うのか、答えになっていないと思う。朝日・温海地域では頑張ったが、他地域は努力していないということか。

回答（コミュニティ主幹）

繰り返しになるが、絶対数の違いがあったことと、スケジュールが甘かったのもあるかと思う。やはり市内でも関係する課、全課で対応することができず、関係課でのみ行ったこともあり、非常に進捗率が低かったという状況である。

意見（佐藤照子）

飯豊町の中津川に農家民宿の視察に先日行ってきたが、昭和30年頃に3,000人だった人口が現在340人という大変な過疎化した地域であったが、とても頑張っている姿を見て、朝日地域も過疎化とばかり言われていられないと感じた。中津川でも町からも力を貸してもらっているようであったが、私

達も頑張らなければと思ってきたところなので、鶴岡市もぜひ力を貸していただきたい。

質問（佐藤芳弥）

①地域コミュニティの実態調査について、調査を行ったことでそれぞれコミュニティの違いが鮮明に分かったと思うが、合併して全て一本の方針でという現在の進め方よりもそれぞれの違いに合わせた対応が必要では。旧鶴岡市と旧町村のいろいろな違いを一本化するための取り組みは分かるが、果たしてそれが地域活性化や住民のためになるか、少し考える方向もあってよいのではないか。

②いろいろな計画があるが、前提として財源がある。今行財政改革ということでもかなり厳しい状況を踏まえて意見も出されているし、計画と行革による財源確保が課題となる。

③朝日庁舎が地域の核となってやっていくためには庁舎の機能という役割を今の計画にも照らし合わせて位置づける必要があるのでは。

回答（コミュニティ主幹）

一つ目の質問について、質問のとおりそもそも独立した行政組織としてきたわけなのでコミュニティそれぞれの違いがあることも分かったし、共通の課題があることも認識している。課題をどのように解決するには地域の方々と一緒に取り組む必要があるが、施策や体制については現段階ではできていないため、今後調査結果をもとにさらに検討を進めていきたいと考えている。

回答（調整課長）

二つ目、三つ目の行財政改革の関係と財源、庁舎の関係についてだが、行財政改革の取り組みは本年度から始めている。そもそも、なぜ行革なのかと考えたときに、総合計画、実施計画の中でこれからも希望の持てる地域づくりをしていく為、市民と行政が協力して地域づくりを進めていこうとする際に、行財政の基盤がしっかりしている必要があると考えていることによる。その財源についても質問があったが、今考えなければならないのは合併に伴った地方交付税の優遇措置が平成 27 年度から段階的に減ること、また合併特例債で基盤整備を行っているが、今後はこのような有利な起債制度も無くなっていくことが見込まれることがある。

その中で地域づくりを進めていくために、無駄なところは無いか検討しスリム化させて頂いている状況である。行革の中には大きく 4 つの柱があり、行政のシステムをどうしていくのかが一つ目、財政の健全化、事務事業の見直しをどう進めるかが二つ目、市民、地域、行政の協力連携をどのように進めていくのかが三つ目、地域振興やコミュニティを支えていくために庁舎の役割をどうしていくかが四つ目となっている。これまでの行革の段階が二つ目に差し掛かっているため皆さんにも心配をかけているかもしれないが、今後地域づくりをどうしていくかという前向きな議論がなされてくるものと思われる。

意見（齋藤健一）

過疎計画重点方針計画の中で、鳥獣被害に対する重点対策が計画されている。ぜひ実施に力を入れて欲しい。

回答（地域活性化室室長）

市としても被害状況の調査や捕獲、猟友会にお願いしての組織的な活動だとか、いろいろ今後の方向としても野生動物との住み分けということで電気柵等の対策を講じているが、なかなか鳥獣被害が解消されない現状である。過疎計画の中でも鳥獣被害対策については大きな課題として捉えており、重点的な取り組みを進めていきたい。

(4) 分科会

－ 別紙 各分科会会議録による －

(5) 分科会報告

意見（帯刀春男）

地域の良い点、悪い点も含めて地域の特性である。除雪も重要な課題の為お願いしたいし、消火栓ボックスなどの防災設備についても重要なライフラインと捉えている。充分地域の実情を分かった上で予算計上を行ってもらいたい。ぜひこのような大事な部分は予算を減らさないようお願いしたい。

意見（松本壽太）

分科会の課題に対して検討の時間が足りないと感じた。また、地域コミュニティ実態調査の資料の1ページ目の地域コミュニティの図で階層ごとに表していたが、隣近所の第5層の下に「家庭」ということで第6層といれたらもっとよくなるかと思う。家庭あってこそ全てに通じてくると思われる。

また、過疎計画について、ハードからソフトへの転換と方針が変わってくるようだが、数字として成果が残るような計画になればと思う。

意見（清野義次）

朝日地域だけに常設のグランドゴルフ場や老人クラブの健康増進を目的とした大人数の体育大会を受け入れる場所がない。今後農村公園の利活用ということで、ぜひ予算対応してもらいたい。

(6) その他

特になし

4. 閉 会

平成 22 年度 第 4 回朝日地域審議会
中山間地域生活環境（機能）の維持再生について
【コミュニティ分科会】 会議録

○会場：鶴岡市朝日庁舎 第 4 会議室

○出席者：

（委員）佐藤正、齋藤健一、佐藤芳彌、佐藤清、帯刀春男、難波庄一、齋藤亮一、佐藤世津子、
宮崎康史、菅原孫一（12 名中 10 名出席）

（事務局）総務課長、市民福祉課長、税務市民主幹、建設環境課長、教育課長

1. 開 会

2. 協 議

意見（佐藤正）

前回、南部中山間調査研究報告がありその課題改善も示されていたが、それに尽きる。具体的には、

- ①税外負担の軽減支援を図るべき。社会福祉協議会の会費と共同募金について、全市的に統一すべき。
- ②用水路管理なども含め集落住民が減少している中、共同管理も出来なくなってきており問題がある。
- ③学校、保育園など公共施設の統廃合の検討時に十分な配慮を願いたい。
- ④消防協力員について、協力員になるための条件が厳しすぎるので、OB でなくてもなれるとか、緩和及び活動の範囲の拡大をより図るべきである。

意見（宮崎康史）

消防団協力員制度について、消防団 OB が活動できる範囲がその班の区域のみと限定されている。活動をもっと拡大すべきだ。ただでさえ人数が少ないのに、範囲を拡大しないと効果が出ない。

意見（菅原孫一）

担い手問題について。県や市職員等公務員も、集落の自治会活動や役職についてもらうなど、もっと参加できるようにすべき。

回答（総務課長）

駐在員については、行政を執行する立場と駐在員として住民代表の立場との兼ね合いが難しい部分もあり、現職にあるうちは駐在員の職を受けないようにして欲しいと、昨年度から職員にお願いしている。また、消防団員については若い職員を中心に地域でがんばってもらっている。

意見（佐藤世津子）

子育てが終わった世代の人達が活躍している。そのような人達が継続して活動するためにも予算をつけるべき。また、高齢化が進む中、健康や保健分野にもっと予算を増やしてもらいたい。

意見（難波庄一）

計画が漠然としていて具体的でない。調査、計画づくりだけではなく、その後どう実行するかが重要である。また合併して中山間地域では人も減り、予算も減り、悪くなる一方のような感じがする。市街地にいる人達に、中山間地域に住んでいる人達の生活や役割の理解を得られるようにして、中山間地域をよくするための予算などを確保し、力を入れて取り組んでももらいたい。

意見（齋藤健一）

自主防災について。上名川集落の自主防災組織が活発に訓練を行ったが、そのような活動もコミュニティづくりに繋がる。

意見（佐藤世津子）

朝日地域以外には散策できる場所が多くあり、朝日の人も他地域に散策に出かけているという話を聞く。朝日地区にも幼児から高齢者まで気楽に散策できるような散策路を整備してほしい。また、高齢者がいきいきと活躍することで若い人達も育っていくと思う。

意見（帯刀春男）

佐藤世津子委員の意見に関連して、高齢者に集落の中でもっと活躍してもらいたいと思う。集落の役員も含めて、高齢者から中心となってもらいたい。各集落ではどんどん若い人に役員の職をまわしているようだが、高齢者といってもまだ若く元気な人は多いので、頑張ってもらいたい。また、女性からもっと地域や消防などの委員になってもらい、活躍してもらいたい。

意見（齋藤亮一）

民生委員の活動は全てボランティア、無償で行っているが、中山間地域であり冬季の降雪時などは移動も非常に大変である。民生委員の活動のあり方についてもっと考えるべきである。また、現在過疎によりどんどん人口減少している現状にあり、自治会活動や共同作業ができなくなる恐れがある。

意見（佐藤清）

これからも各小学校の生徒数を見ると児童数は減少していくものと思われるが、地域内にも結婚していない人が多くいる。その人達が結婚して子供が出来れば、人口も増え過疎対策にもなるので、行政でも婚活に対する支援を行うべきでは。また、嫁や婿で朝日地域の集落に来た人達が集える場、交流できる場を作り、地域に溶け込めるような支援を充実させてほしい。また、克雪対策をより充実させ、他地域の人に朝日地域に住んでも雪はさほど苦にならないということを周知すれば、マイナスイメージの解消にも繋がるのでは。

意見（難波庄一）

住民の交流の場としての集落の公民館活動や、地区公民館活動を充実すべきである。

意見（佐藤世津子）

公民館活動でも、ただ庫環を聞くだけでなく、なかなか人も集まらないようだ。生活に役立つような実技研修等が行われれば、コミュニティ活動も活発になると思う。公民館活動の指導者育成、人材確保を行政に是非お願いしたい。

意見（宮崎康史）

消防の計画や今後の取り組みを見ると、拠点の整備、計画の見直し等の記述で具体的な計画が書いていないため意見が出しにくい。唯一、自主防災組織の消防資機材の購入等への支援についてとあるが、市が直接購入し設置できないのかと思っている。朝日村時代は行政で全て整備していたが、旧鶴岡はそうではないとのことで、全市統一基準では自治会での整備となるため非常に住民の負担が大きい。

これまでは初期消火の観点からも消火栓ボックス等の整備が重視され整備されてきたが、現在は老朽化が進んでおり、ぜひ市が主体的に整備してほしい。

意見（佐藤芳弥）

現状は過疎、高齢化、少子化の現状であり、この中で残っている人がどのように力を合わせて取り組み、市民力を発揮していくかが重要となる。また、行政力ということからすると、広域化すると地元意識が低下するが、職員も家に帰ればその地域の人となるわけなので、職員にももっと地域での活動に力を注いでもらいたい。先程の消防の話の中で、全市統一の基準で制度が無くなってきているという話もあったが、それだけでは地域のコミュニティを繋いでいたものや、この地域に残ろうという意識まで喪失してしまう。なし崩しに無くなり、自分達で何とかやれと言われても除雪や医療など不安な面が多い。

意見（宮崎康史）

消防団員の人数が現在 3,400 人ほどいて、鶴岡市の人口 14 万人に対する必要人員規模は 1,800 人ほどと、確か市長が話していたと思うが、市として消防団員が何人必要なのか、将来的にどの程度の規模にするのか明確に方向性が示されていない。もし市長の言うように市全体で 1,800 人程度でよいのであれば、現在朝日方面隊は定員割れしている班もあるがこのままでもよいと思われる。消防団員の適正規模を示すべきである。

意見（帯刀春男）

地域の中で自ら助け合う活動ということでも消防団活動は重要だと思う。消防団員にもコミュニティ活動にもっと参加してもらえれば。また、コミュニティを考えるとときに地域の伝統芸能活動も地域をまとめる上で重要な働きがある。文化・伝統芸能を通して地域づくりが行われていることも重要である。

意見（難波庄一）

合併前から変わらず除雪体制はとても充実していてありがたいと思う。冬季間除雪がされていないと救急車や消防車など医療や防災の面でも不安であるが、現状でも除雪体制は非常によく不安がない。

意見（佐藤正）

人材育成については、これから育てても正直間に合わない。いる人で何とかするしかないと思う。

意見（帯刀春男）

地域での P T A 活動も、親任せにせず、もっと子供自身が地域に関わらせて活動させ、地域の一員として地域のよさを見直してもらい育てていくべきだと思う。

（総務課長）

今回の意見等を受け、予算化に向けた協議をさせてもらいたい。また、2 月頃に地域審議会を計画し、予算等の報告をしたいと考えている。

3. 閉 会

平成 22 年度第 4 回朝日地域審議会
農林業の六次産業化の推進について
【農業農村分科会】 会議録

○会場：朝日庁舎 第 1 会議室

○出席者：

(委員) 松本壽太、佐藤照子、清野義次、井上時夫、菅原和則、伊藤文一
(8 名中 6 名出席)

(事務局) 農林課長、商工観光課長、農業振興主査、商工観光主査

1. 開 会

2. あいさつ

松本壽太分科会座長

3. 報 告

農林課長が資料をもとに説明

- ① 平成 22 年度水田利活用自給力向上事業計画の状況
- ② 潜在生産量（加工資源）の調査（2 回目報告・意向調査継続）

4. 協 議

(1) 6 次産業の考え方について

意見（佐藤照子）

加工施設についてだが、地域に缶詰、瓶詰できる施設が無いのが信じられない。絶対に欲しい。ただ、誰もが利用できるということになると衛生的に問題ありそうだ。1 つの組織で知識のある人が指導者として管理できればいいのだが。

また、加工した農産物を販売する方法はいくらでもありそうだ。インターネットもあるし、産直でもどこでも出せると思う。加工したい需要がどのくらいあるのか、意向調査の回収があまりにも少ないので、もっと出してもらいたいし、行政でも引き続き調査を続けて欲しい。

質問（清野義次）

なぜ意向調査は回収率が良くなかったのか。

回答（農業振興主査）

回収の依頼方法が適切でなかったと考えている。

意見（清野義次）

アンケートだけでなく、できれば集落に行って説明して聞き取りもしたほうが回収できそうだ。

回答（農林課長）

アンケート内容に金額を記載する欄が入っているのも回収率の低い要因だと考えている。

意見（佐藤照子）

産直あぐりの加工所は、委託を受けた人が運営していて良いという評価があるようだ。

意見（菅原和則）

加工施設を造るにあたって、誰が加工するかということや、高齢者など加工所までこれない人や、量が少なくても、お金が稼げる仕組みにできるかが課題だと思う。販売も集中するときはばけない。そのような時どうやって販売していくか、例えば一次加工し原料として出荷するなどを考えなければならない。

意見（佐藤照子）

産直カーのように生産者の所へ集めに回って、商品にして返す、もしくは、材料として買い取ることができればいいが。

回答（農林課長）

年間を通した加工業としては運営的に厳しいと考えている。地域の民間加工会社がやめてしまったのは、冬期の原料不足と、取引先が倒産し販路がなくなってしまったからと聞いている。六次産業として農家が作業の合間を見て加工ができればと考えている。加工に関しては、生産者が加工したいときに予約を受けて指導員を依頼するイメージを考えている。

意見（松本壽太）

これまでの加工施設の話聞いていても、農家の個別一貫経営は厳しいと思う。

意見（佐藤照子）

なめこは生でも足りない。もっと生産量を増やしてほしい。

意見（伊藤文一）

林業関係の会合で、今年のきのこ菌補助（林産補助制度）はとても良かったという話が出た。予算は100万円ということだったが、実際は250万円になったと聞いており、増額の対応をしてもらって大変ありがたかった。きのこは、生産者が出荷するときにkgいくらで売れるか分かれば、安心して生産できると考える。また、一度加工したものを集める工夫もあると、より安心して生産できるようになるのではないか。

回答（農林課長）

林産補助制度について、多くの方に利用してもらった。これまで、きのこの売上が伸びないのが悩みであった。今回の補助で助成したきのこについて、来年度以降どのくらいの成果があるか、継続調査していきたい。

意見（松本壽太）

朝日のきのこをブランド化することによって、販売拡大につなげてほしい。

意見（佐藤照子）

朝日地域で加工品のお土産といえ、ワインやジュースなどの商品に限られてしまう。加工施設ができて山菜やきのこを瓶詰めできるようになれば、箱詰めにして贈答ようにできる。

意見（井上時夫）

瓶詰めできるなら、時期が合わないときでも親戚などにあげることができる。

回答（農林課長）

この分科会で、加工施設をはじめとした6次産業をやっていこうという意味確認ができれば、市の施策として取り組んでいけると思う。

質問（佐久間主査）

委員の皆さんは、加工施設をつくるとすれば地域内で1箇所というイメージか。

意見（井上時夫）

イメージはそうだが、以前なめこ組合でやっていたときには、量が一度に多く集まりすぎた。

意見（菅原和則）

朝日に加工施設が必要であるというのはもちろん理解できるが、朝日にそこまでこだわらず、他地域の加工も請け負うなど、柔軟な運営を検討して欲しい。何より施設として、加工作業の他の役割、例えば集める場所としてなど、どこまでやるのかを予め決めるのが良い。

回答（農林課長）

どのような施設や方法がいいのか、来年度は実験的に加工等をやってみたいと考えている。

意見（佐藤照子）

例えばキンタケはだんだん少なくなってきている。市内にはないが、ここに来たらあるということになれば朝日地域の魅力になるのでは。

（2）その他

質問（清野義次）

以前質問した農村公園の利用状況のまとめはどうであったか。グランドゴルフ場としての利活用について、強かに推進してもらいたい。行政より先にはいけない。

回答（農林課長）

まだ進んでいない現状がある。地元からも要望もしてほしい。

回答（支所長）

地域審議会からの要望としていきたい。予算に反映できるようになればと考える。

意見（伊藤文一）

市長が鉄砲を市職員や農協職員に持たせる案があるということだったが、農家に持たせるのはどうか。

回答（支所長）

助成も考えないといけない。ただ、市職員の案については、サルが出たときそのつど通常の業務を離れて出勤するのは困難な面もあるようだ。

意見（伊藤文一）

猟銃の資格を取るまで大変である。現在の制度はなるべく鉄砲を持つ人を少なくしようとしている制度だ。資格の更新料や添付書類、健康診断を受けることに加えて、精神科の診断に行かないとダメになった。

5. 閉 会